

桐生市議会 視察報告書

視察都市	台湾 台北市（人口約 270 万人） 台湾 雲林縣（人口約 70 万人）
視察日時	平成 28 年 10 月 18 日（火）～ 10 月 21 日（金）
視察項目	・桐生市訪台事業（海外販路開拓支援事業）

◎視察概要

この度、桐生市の「海外販路開拓支援事業」（成長著しい東アジア経済圏の活力を取り込むため、平成25年度より行っている事業）の一環として取組んでいる、台北テキスタイルフェア(TITAS)への桐生市ブース出展、そして、昨年10月に雲林縣諸都市と締結した「友好連携に関する覚書」に基づく産業振興に向けた産官学の取組みの実状などを視察するため、桐生市長をはじめとする、官民訪問団の一員として、森山享大桐生市議会議長と共に、議会を代表して台湾に渡航させて頂いた。

以下、行程ごとに内容を報告させて頂く。

10月18日（第一日目）

台北市到着後、「台湾精品館」を視察。

台湾精品館では、台湾精品賞や日本のグッドデザイン賞などを受賞した製品を中心に台湾メーカーの製品各種が「Industrial Products」「Home & Living」「ICT Products」「Sports & Leisure」の4つのカテゴリーにて展示されており、台湾ブランドの高い技術力、デザイン力を改めて認識させられた。



10月19日（第二日目）

台北テキスタイルフェア（TITAS 2016）を視察。

台北テキスタイルフェアとは、台湾で開催される唯一のテキスタイル専門国際見本市で、本年も400社、760ものブースが設けられ、10月17日～19日の間、TWTC南港展示ホールにて開催された。

桐生市は、平成26年度より同見本市に桐生市ブースを設置し、市内企業と共に出席。本年は、市内繊維関連企業の4社が出席。更に3社が出品した。（出席者及び出品社は別紙の通り）

出席一覧を見ると、自治体としてブースを設けていたのは、桐生市のみであり、日本有数の繊維産業集積地としての桐生市、そして、その歴史・文化と風土の中で生み出された世界に誇る特色ある製品を、限られたスペースの中で効果的にPRできていたように感じた。

我々が到着した際、ブース内には多数のバイヤーが訪れて商談を行っており、本年度3回目となるこの取組みが、徐々に現地にも浸透し、実商売での成果に結びついてきている、また結びつつある様子を目の当たりにした。また、現場では、市長・市職員がまさに営業マンのように動き回り、来場者と出席企業の繋ぎ役として奮闘しており、市としての熱意が感じられた。

前述の通り、企業単位ではなく、自治体として産地をPRするという手法により、来場者に対し、桐生市ブースに行けば、何か先進・独創的な技術を有する会社、そして製品に出会えるのでは？という認識を与えることについては、他のブースとの比較においても、かなりの効果が出ていることを、“現場の肌感覚”としても強く感じさせられた。



10月19日（第二日目）午後は、台北市から雲林縣に移動

10月20日（第三日目）

雲林縣議会訪問

実務連携会議に先立ち、森山議長、青木事務局長と共に、雲林縣議会を表敬訪問。蘇俊豪副議長にご応対頂き、双方地域の協力関係の必要性などを懇談させて頂いた。その後、雲林縣議会の活動内容に関する映像を拝見させて頂いた。

雲林縣にて実務連携会議（午前：縣内の主要施設・企業を訪問視察）

雲林縣は、台湾の西海岸の中部に位置し、1市5鎮14郷にて構成。人口は約70万人(2016年1月時点)で、基幹産業は、繊維産業及び農業。同日午前中は、縣内の主要施設(麦寮晁陽緑能園區)、企業(台湾プラスチック企業)を視察させて頂いた。

・麦寮晁陽緑能園區：

太陽光発電を活用した農業生産研究施設であり、台湾政府のグリーンエネルギー政策に基づき、同郷の基幹産業である農業分野において「太陽光発電技術」「安全性の高い農業生産」「環境・食農教育」の3つのテーマを対象に研究を行っている。風土を生かした自然エネルギーの活用と安全性の高い農業生産物の提供、更に教育面での取り組みなど、農業に関わらず、今後、社会全体として取組まねばならない課題に対し、地道に仕組づくりに取り組んでいる様子に感銘を受けた。今後、桐生市内においても、工業団地の造成がスタートするが、業種を越えて、こうした取り組みや理念を浸透させていく必要性を強く感じた。

・台湾プラスチック企業

台湾最大の民間企業代表する民間企業グループであり、合成樹脂・繊維・石油化学・医療など、多岐にわたる事業を展開している。訪問地である雲林縣麦寮郷地内にあるということで、表敬訪問させて頂いた。



雲林縣にて実務連携会議（午後：実務連携会議に出席）

参加者：

桐生市、桐生市議会、桐生商工会議所、群馬大学、北関東産官学研究会
桐生市内企業（朝倉染布株式会社、西工業株式会社）

雲林縣、財団法人紡織産業総合研究所、台湾区毛巾工業同業公会、
国立虎尾科技大学、台湾企業

桐生市は、「台湾雲林縣諸都市との友好連携に関する覚書」を、平成 27 年 10 月 22 日に締結。

今回の実務連携会議においては、桐生市からの訪問団と、雲林縣の経済界、学術界関係者などが一同に介し、これまで構築してきた友好関係を更に発展させ、ビジネス面での交流を更に深めるために活発な意見交換がなされた。

会議においては、桐生市、雲林縣双方の参加企業の事業内容と連携の可能性について議論された後、今後の実務連携について、様々意見が交わされた。

一例を挙げると、

- ・桐生市内施設における雲林縣製品の展示 PR、物産展などへの出品
- ・日本で行われる国際見本市への共同出展
- ・それに向けた両地域の持つ技術を生かした共同製品(コラボ製品)の開発などである。

なかでも、共同製品の開発について雲林縣からは、両地域の持つ繊維産業集積地というノウハウを生かし、それぞれの「文化」を取り込んだ製品を開発し、市場に出していけないか？というような踏み込んだ提案もあった。

このように前向きな意見が交わされた一方で、現在までに、商談やビジネスの進展といった、成果という点においては具体的な議論には至らず、まだまだこれからという感も否めなかった。しかしながら、これまでの地道な取組みにより、両地域間における、産官学といった複合的なネットワークが構築されてきている点、そして、それを成し遂げる為の人的信頼関係が着実に結ばれてきていることを強く感じ、今後の事業展開に希望が持てる会議であった。



10月21日（第四日目）

雲林縣（陸路）⇒台北（空路）⇒帰国

◎ まとめ

台北市内の賑やか、且つ華やかな街並は非常に印象的であったが、一方で、雲林縣への移動中の車窓、そして現地での視察においては、“台湾庶民の暮らしの実状”も垣間見ることができた。インフラの整備や情報通信技術の著しい発展は、日本以外のアジア各国にも驚く程のスピードで進行し、その利便性により、着実に人々の暮らしを豊かに変えてきているが、視点を庶民の生活現場に向けると、光の当たらない人々がまだまだ大勢いることを痛感させられた。今回、雲林縣においては、県議会を訪問させて頂き、各議員が地域発展のために尽力している様子を映像等でご紹介頂いたが、改めて、現場の最前線で住民生活と向き合う地方議会、なかならずく地方議員の役割というものの重要性を、国を越えて強く認識させられた。

桐生市の「海外販路開拓支援事業」については、今後の TPP への取組み（アメリカの動向をはじめとする様々な点を注視する必要がある）を契機に、多くの中小零細企業が、より海外市場を見据えていくことが予想される中で、非常に意義のある事業であると確信する。それ故、今後の連携においては、より実務面を強化し、成果に結びつけていくことが求められるが、今回の視察を通じて、その根底に必要なのが、相互の信頼関係であることを改めて感じた。これは、これまでの継続的、且つ地道な取組みの賜物であると確信するが、今後はそれらに加え、文化芸術面などの民間交流などを含めた、あらゆるパイプの構築を推進し、本市企業の海外市場挑戦への強固な地盤づくりをしていくことも必要ではないかと考える。

今回の視察行程において一貫して見られたのが、亀山市長をはじめ、産業経済部長、そして担当の若手職員の皆様が、あらゆる場面において、現地の関係者と信頼関係を結び、桐生市企業の販路開拓の下地を築こうと奮闘されている姿、併せて、TITAS への出展企業、桐生商工会議所、群馬大学関係者の皆様の、実務面における成果達成への意欲と販路を切り開かんとする積極的な姿勢であった。こうした、まさに「オール桐生」の情熱こそが、海外販路を切り開く原動力になるのだということを強く確信した。

今回の台湾渡航を通し、本市の海外販路開拓支援事業の目的や意義、そして、綿密な取組みに触れさせて頂く中で、議会としての今後の更なるバックアップの必要性を強く感じた。そして、1社でも多くの市内企業をこの事業にお繋ぎしていくためにも、今後の課題（可能性と申し上げても良いかも知れない）で

ある、成果（プラス面、マイナス面双方）などに関し、行政としっかり情報共有しながら、議会として捉えた現場の声やニーズとのマッチングや、事業への反映に努めて参りたい。

最後に、今回、このような貴重な機会を与えて頂いたことに深く謝意を示し、視察報告を結ばせて頂く。

以上

報告者

桐生市議会 経済建設常任委員会
委員長 山之内肇

<別紙資料>

「台北テキスタイルフェア（TITAS2016）」桐生市ブース出展者一覧（4社）

【アルファベット順】

出展社	代表者		出展担当者		出品物カテゴリー
	職位	氏名	職位	氏名	主要出品物
ART CO., LTD. 株式会社アート 桐生市相生町2-620	代表取締役	伊藤 久夫	化粧品事業 担当	山田 幸子	Trimings & Related Products (付属品・関連製品) シルクアミノ加工、絹化粧品
ASAKURA SENPU CO., LTD. 朝倉染布株式会社 桐生市浜松町1-13-24	代表取締役 社長	朝倉 剛太郎	営業業務課 課長代理	猪岡 長一	Apparel Textiles (衣料用生地) 撥水加工生地、ダイレクトイ ンクジェットプリント生地
FUJILACE CO., LTD. フジレース株式会社 桐生市相生町1-15	代表取締役	中野 隆雄	営業部部長	丹羽 英雄	Home & Industrial Textiles (家庭用生地・産業用生地) 和紙寝具（シーツ&枕カ バー）、和紙プラインド生地
KASAMORI CO., LTD. 株式会社笠盛 桐生市三吉町1-3-3	代表取締役 社長	笠原 康利	代表取締役 社長	笠原 康利	OEM/ODM Apparel & ccessories (OEM/ODM 衣料・アクセサリー) ネックレス、プレスレット、 イヤリング

「台北テキスタイルフェア（TITAS2016）」桐生市ブース出品者一覧（3社）

(ブース装飾を兼ねた市場調査を実施)

出品社	代表者		出品担当者		出品物カテゴリー
	職位	氏名	職位	氏名	主要出品物
Textile manufacturer, Busutake 織元毒武織物 桐生市広沢町5-1793	代表取締役	毒島 信八	草木染工房 課主宰	毒島 和恵	草木手染シルクストール
Ida seni Co., Ltd. 伊田繊維株式会社 桐生市境野町6-429-1	代表取締役 社長	伊田 茂	営業	伊田 悟	作務衣
Osawa Wood Works Co., Ltd. 大澤木工有限会社 桐生市境野町2-654-3	代表取締役	大澤 直也	代表取締役	大澤 直也	木工製品（ランプ）